

# 千葉・旭市「あさひ新産業パーク」

# メガソーラー立地相次ぐ

【千葉】千葉県旭市の工業団地「あさひ新産業パーク」にメガソーラー（大規模太陽光発電所）の立地が相次いでいる。1月までに2社と分譲・賃貸契約を締結。合計面積は7・2畝、出力は4868キロワット（想定年間発電量約510万キロワット）になる見通し。現在さらに3社と合計13・8畝のメガソーラー用地契約交渉を進めている。東日本大震災で大きな被害を受けた旭市だが、新産業の誘致は復興に弾みをつけそうだ。

## 誘致で震災復興に弾み

12年12月に東京都港区行政との調整を進めていた。同公社は12年8月に誘致対象を電気供給業にも広げ、9月には5畝以上の立地に賃貸価格を優遇する制度を創設。価格の安さや日照時間の長さ、降雪の少なさなどが評価され、メガソーラー用地として引き合いが相次いでいる。

1月に東京都東大和市の自動車販売会社と5・6畝（同3878キロワット）の賃貸契約を結んだ。2社ともに着工済みで、4月に発電を始める。交渉中の3社は電力会社や

模な雇用創出効果は見込めないが、旭市は「団地にクリーンなイメージが定着すれば他業種の誘致促進につながるのでは」（商工観光課）と期待する。団地の分譲・賃貸面積が減少した結果、「製造業からの問い合わせも

増えている」（千葉県土地開発公社業務部）という。